

事業の背景・目的

- ・本県の但馬地域においては「イヌワシ」の2ペア（扇ノ山&美方）が確認されているが、現在、絶滅の危機にある。
- ・両ペアの生息地が近い上山高原では「上山高原エコミュージアム運営協議会」を設立し、地元住民を中心としてエサ場となる草原の復活、維持管理に力を注いできた結果、美方ペアが令和2年に16年ぶりにヒナが誕生したが、餌不足などから落鳥した。
- ・この出来事を契機にイヌワシ保全の取り組みを強化し、令和3年8月に環境省が策定した「イヌワシ生息地拡大・改善に向けた全体目標」の達成も見据えて、イヌワシの命をつなぐ「但馬イヌワシ・エイドプロジェクト」を展開する。

事業の内容

事業① 航空レーザー測量

- ・2022年3月に兵庫県内に生息するイヌワシ2ペアの行動圏の全域の航空レーザー測量および航空写真撮影を実施した。
- ・撮影レンズによる画像の歪をオルソ幾何補正し、イヌワシ行動圏内の空間解析解析に用いる画像を整備した。
- ・地理情報システム（ArcMap9.3 ESRI）を用いてイヌワシ行動圏内の空間解析を行い、イヌワシの保全対策の構築に必要な情報を採取した。

事業② 保全計画の策定

- ・イヌワシの餌（ノウサギ）を増やす取り組みとして「ノウサギの跳ねる森づくり計画」を立案した。
- ・イヌワシの狩場を整備する取り組みとして「イヌワシの狩場の創出計画（ハイブリッド型）」を策定した。
- ・これら2つの計画を令和4年度以降に実施する事業計画を立てた。

得られた成果

イヌワシ生息地における航空レーザーデータおよび航空写真影を基に、①冬期におけるノウサギの生息環境（樹高3m～5mの森林）を明らかにすると共に、②それらを人為的に創出する「ノウサギの跳ねる森づくり計画」を立案した。また、既往の研究成果を基に、イヌワシの狩場の最適サイズ（面積：507.9±157.0 m²、長径：33.8±4.9m、短径18.3m±4.3m）および許容サイズ（面積：49.6 m²、長径：14.8m、短径：4.3 m）を検討し、それらをススキ草原の周辺に伐採地として新設し、5～7年間放置して労力と費用を抑えながらイヌワシの狩場を増やす「イヌワシの狩場の創出計画（ハイブリッド型）」を策定した。令和4年度以降、これら2つの計画を実施し、イヌワシが一年を通じて安定してエサを捕獲できる環境の整備を推進する。